

まなび通信

- ◆ 最上教育事務所研修通信
第 4 号
- ◆ 令和 2年 6月 3日
- ◆ 最上教育事務所指導課

“プロジェクトM” が始動しました!

今年度の「もがみ授業改善研修」は、6名の先生方をメンバーに迎え、5月19日に開講式及び第1回研修会をオンラインWEB会議で実施しました。集合型研修を回避した初めての取り組みとなりましたが、メンバーの協力のもと有意義な研修を実施することができました。

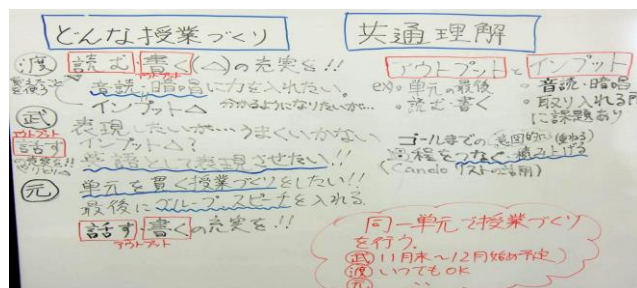


<事務所より挨拶及び事業の説明>



<画面に映るメンバーの顔を見ながら意見交換>
「話すタイミングが難しいです!」

協議では、先生方が「どんな授業づくりをしたいか」、「単元を通してどんな資質・能力を育成していきたいか」を共有し、今後の単元・授業づくりの方向性を確認しました。



今後、新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、オンラインや集合型研修等で実施方法を工夫して、教科部会を行っていきます。その後プロジェクトの提案の場として、10月~12月に小学校算数、中学校数学、中学校英語の公開授業研究会を行う予定ですので、是非御参加ください。

メンバーの感想より(抜粋)

- ◇ この時期だからこそ、授業づくりについて話せる場があるのは、とてもうれしいことだと思いました。
- ◇ リモート会議という慣れない形式での会議の中、他の先生方と課題意識の共有ができて良かったです。今後の研修を進めていく上で核にしたいことが明確になってきた実感を得ることができました。
- ◇ 口に出すことで、自分がどんな単元・授業を作っていきたいのかを認識することができました。また、参加の先生方の考えをお聞きし、生徒につけたい力などについて、視野を広げることができました。

令和 2 年度版「最上地区学力向上プラン」
「授業のレベルアップ」も併せて、授業改善
の参考資料として御活用ください。

算数・数学部会(山形大学 大澤 教授より)

□授業づくりのポイント

①**数学的活動の充実を!**

児童生徒が**目的意識をもって**行うことが大切。特に、**問いの発見**がこれからは大切に。
そのために、児童生徒が**問いを見出せるような取り組み**(教師の問い返し、オープンエンド
な課題など)を準備、**コーディネート**が必要になる。

②**課題の質の吟味を!**

“脳に汗をかかせる”ことができる**難易度の設定**を。高みを目指すためにも教科書レベルに
とられない**魅力的な課題**を設定する。

外国語部会(山形大学 金子 准教授より)

□授業づくりのポイント

①**良質で多量のインプットを!**

繰り返し表現を**インプット**した上で**アウトプット**させて(書かせて)いく。

②**実践的な言語活動を!**

学習した表現を使う言語活動を多く設定する。また、日常生活を題材にして、実践的に学び、
言語活動を行う。ポイントは“自分が本当に言いたいこと”を伝えさせること。

③**スモールステップで積み上げを!**

学習到達目標(Can-Do リスト)をもとに、言語活動を積み上げていく。
さらに、教師は**ゴールを見据え**生徒を導く。そのための**授業(単元)をデザイン**すること。

探究型学習による授業を通して、子どもたちの“**探究心(知的好奇心)**”
そして、“**主体性**”を育み、**確かな学力**をつけていく。
そのために、各教科等では**単元を貫く探究心(知的好奇心)**
つまり、“**課題意識**”を持ち続けて学ぶ授業改善を!



まとめ:単元構想・授業構想について

□ 本時だけでなく、この単元でつけたい力を明確に持つ!

- ⇒ 単元構成の際、つけたい資質・能力を明確にする(より具体的に)
- ⇒ 課題(教材開発)の吟味
 - ・ねらいの達成につながる
 - ・子どもにとって解決する価値がある
 - ・上位の子どもの思考力も高める
- ⇒ ねらいが達成できる適切な言語活動を見極める
 - ・新たな気づきを生み、深い学びに向かう教師の発問や問い返し
- ⇒ つけたい力に適切な評価問題を設定する(単元末と本時の評価)
- ⇒ ねらいを達成した子どもの具体的な姿(評価規準)を明確にする